

平成 28 年 度 第 1 回

那 須 烏 山 市 総 合 教 育 会 議 会 議 録

平成29年1月20日(金)

午後1時13分～



発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
1. 開会	岩附学校教育課長が開会を宣した。
2. あいさつ	大谷市長、田代教育長がそれぞれ挨拶した。
3. 自己紹介	委員、事務局の順にそれぞれ自己紹介を行った。
4. 議事	大谷市長が議事を進行した。
1) スーパーティーチャー育成事業報告について	
大谷市長	1)「スーパーティーチャー育成事業報告について」を議題とする旨を告げ、事務局に説明を求めた。
内藤主幹	スーパーティーチャー育成事業報告について説明をした。
大谷市長	質疑がないかと会議に諮った。
澤村委員	今回の福井市視察研修で学んだもので、今後の本市の教育行政を推進する際に、参考または取り入れるべき具体的な方策等は何かあるかについて質した。
内藤主幹	福井市独自の政策もあるので、丸ごと本市のものとして受け入れるのではなく、例えば易しいことでも一生懸命に取り組む「凡事徹底」などは参考としながらも、本市教育のよい面も生かしながら各学校でその手法を検討し取り入れる方向である旨説明した。また学習指導や教員の研修に関しては、例として校内で研究授業を実施した際に付箋を活用して「良かった点や課題」等をメモし、その後に行う研究授業の討議の場で、参加教員がそれを持ち寄り協議・検討を加え、次回の研究授業においてどのように改善できるか等、後々の教育現場で活かせるような取り組みを既に始めた旨も併せて説明した。なお、細部において、どのような形で指導力が発揮されるのかや授業の組み立てはどうすべきかなどは、今後の研修や各学校における検討・研究課題でもある旨も説明した。さらに、2回の研修の参加者については、第1回は「若手の教員」を、第2回は「教務主任等学校経営に関わる中堅の教員」であった旨説明した。
澤村委員	今回研修に参加した各教員について、今後スーパーティーチャーとして

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	各学校で頑張っていたことになり、スーパーティーチャーに指名さ
	れたことで、新たに過重な負担や責任をさらに求められるという懸念がな
	いかについて質した。
内藤主幹	今回参加した各教員に対し、今すぐに研修の成果を求めるものではなく
	今後3年から5年後に各小中学校において学習指導の要になってもらう
	ためのものであり、現時点では各学校の学習指導主任又は研究主任担
	当の教員と協力しながら、校内研修等において視察先で学んだものを発
	揮してもらえればよいと考えている旨説明した。また、各小中学校長、教
	頭には今回の研修に参加した教員を見守りつつ引き続きサポートをお願い
	した旨併せて説明した。
澤村委員	今回の研修に参加した教員が本来受け持っている学級などでは、研修
	期間中に不在となるため、研修終了後に不在期間中の業務の後処理な
	どをしなければならないなどの負担は発生しないか質した。
内藤主幹	各学校において、研修に参加した教員の不在期間の対応は学校全体
	で他の教員が代わりに授業を行うなど、児童・生徒に影響が出ないよう
	かつ研修参加教員が後日過重な負担が発生しないよう配慮した旨説明
	した。
岡崎委員	今回の研修参加者は小学校3年生以上の担任の教員ばかりであった
	が、来年度以降小学校1、2年生の低学年の担任教員等の参加も計画
	しているかについて質した。
内藤主幹	今年度は特に学年指定をして参加を求めたものではなく、学校長から
	推薦いただいた結果、たまたまこのような参加状況となったが、来年度
	の参加者については、ご質問のとおり、低学年の担任教員についても
	推薦いただくよう各学校長にお願いする予定であること、また、今回の
	研修参加者には、視察先で見た内容について自分の担任学年のもの
	のみでなく、低学年の授業の取り組みの内容等についても、それぞれ

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	の学校の低学年担任の教員にも必ず伝えるよう今後働きかける旨説明
	した。
岡崎委員	特に低学年に注目した理由には、小学校を含め学校を好きになるか嫌
	いになってしまうかの影響があるととても重要な時期と考えているので、少
	しづつでも学校が好きになってもらうよう細心の配慮をお願いしたいこと
	と、併せて授業の形態が縦割り又は横の連携等いろいろあるが、これは
	特に実施すべきであるという手法については、是非各小中学校で取り入
	れそして他の同僚教員にも浸透するよう各学校側に促すよう対応願いた
	い旨述べた。
阿久津委員	福井市では家庭学習の取り組みの徹底とあるが、具体的にはどのような
	内容なのか質した。
内藤主幹	福井市においては、家庭学習は当然やるものだという意識が児童・生徒
	だけでなく、各家庭においても保護者まで理解・浸透している状況にある
	ると視察先の関係者から聞いた旨説明した。具体的な手法の有無は、今
	後の研修において機会があれば先方に確認する旨と、家庭学習をしてき
	たかの有無に関係なく、各教員がしっかりと児童・生徒に勉強を教えるの
	が学校の使命であると、視察先の学校長が話していた旨併せて説明した
	。また、家庭学習をしてこない児童生徒はあまりいないが、その一部が終
	せなかった児童・生徒には、放課後にその部分を補習させたり、部活動は
	させず勉強を優先させ、それが終わるまで各関係教員が学習指導等対応
	している旨説明した。ただ、本市の場合はスクールバスの送迎時間の関係
	で時間的制約があるため、同様に実施するのは難しいが、放課後学習指
	導等の必要性があることについて説明した。
阿久津委員	各家庭において、保護者の責任として小学校の低学年から高学年まで帰
	宅したら、必ず宿題等を済ませるよう促す必要もある旨述べた。
網野委員	研修参加者の多くが「非常に有意義なものであった。」と感想を述べてい

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	るが、今回の研修の趣旨・成果等を自ら各校の他の同僚教員等に普及啓
	蒙することを願い、それが本市の教育力及び各児童・生徒の学力の向上
	・発展につながるよう努力願いたい旨述べた。
	また、その実現のためにも、当該研修事業を1～2年で終了させることなく
	継続的に実施するよう要望したい旨述べた。
大谷市長	平成29年度の新年度予算においても、2年目となる当該研修事業費を計
	上したところであるが、市単独の貴重な財源をあてることから、継続実施を
	前提とするものの、費用対効果を検証しながらより実のある多くの成果が
	あがるよう、担当課である学校教育課を中心に各学校と連携をとるよう指
	示する旨説明した。
岡崎委員	学習指導も児童・生徒にとって大事だが、一方で子どもたちの遊び、具体
	的には「スマートフォンや、ゲーム機の取り扱い方」に係る指導についても
	来年度以降の当該研修事業の視察項目に含め、例えば福井市では学校
	としてどのような対応策をとっているかを学ぶことも必要である旨述べた。
大谷市長	本市と福井市の学習指導等は、具体的にどこが大きく違うのかを質した。
田代教育長	冒頭の研修事業報告にもあったとおり、何事においても「凡時徹底」を重
	要視し実践している点であること、また、10年前までは福井市の小学校等
	でも、椅子にじっと座ってられない児童・生徒が多かった旨説明した。
	過日の視察において、研究授業中のクラス以外は担任教師が不在であっ
	ても、静かに自習している状況にあり、とても素晴らしいとの報告を参加者
	より受けた旨説明した。さらに、ここに至るまでは、学校と家庭が連携をと
	り、一步一步堅実に取り組んだ日々の積み重ねがあったことも伝えられた
	旨述べた。そのためにも、小学校の低学年の担任教員の視察研修への
	参加も、来年度以降視野に入れ事業を進める方向である旨述べた。
大谷市長	学校運営については、本市も福井県、秋田県も大きな差異はないと感じ
	ているが、宿題を出す量が異なるのではと質した。

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
内藤主幹	全国一律で学習指導要領に基づき実施していることから、福井市の研修
	先で確認は取れていないが、同じ内容のものを学んでいるので、基本的
	には宿題の量の差異はないと推測する旨説明した。
澤村委員	小学校で各担任教員が、家庭で前日に宿題をやってきたか否かを授業
	開始前に事前点検することも必要であること、そして学力向上には保護
	者の責任もあるが予習・復習が重要である旨述べた。
澤村委員	中学校アンケートで、福井市においては「学校が楽しい・・・100%」、「授
	業の内容が理解できている・・・90%」、「宿題や予習、復習を家庭で取
	り組んでいる・・・85%」と生徒が答えているのに対し、本市の鳥山中学
	校で以前実施したもので、例えば「学校が楽しい・・・70%」と答えてい
	る点での福井市との差異は、学校が楽しくなければ勉強も楽しくないと
	いうことを示しているのではと質した。また、現在同様のアンケートを本市
	の各学校において実施しているかについても併せて質した。
内藤主幹	推測であるが、学校においては学校評価での関係で独自に実施してい
	ると考えられるが、学校教育課として別途アンケートを実施はしていない
	旨説明した。
大谷市長	本市の児童・生徒の学力向上には、市、教育委員会、学校等すべての
	関係者が連携を密にすることが重要不可欠であるので各教育委員をは
	じめ多くの関係者の支援を要請する旨述べた。
大谷市長	他に質疑がないかと会議に諮り、質疑がないので、1)「スーパーティー
	チャー育成事業報告について」は報告のとおり承認してよいか会議に
	諮った。
	(全員異議なし)
大谷市長	全員異議なしと認め、1)「スーパーティーチャー育成事業報告につい
	て」は報告のとおり承認する旨を告げた。
2)いじめ防止対策について	

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
大谷市長	続いて、2)「いじめ防止対策について」を議題とする旨を告げ、事務局
	を説明を求めた。
内藤主幹	資料22ページを中心にいじめ防止対策について説明をした。
大谷市長	質疑がないかと会議に諮った。
阿久津委員	第三者委員会の構成員について、予め決まっている方がいるかどうか
	について質した。
内藤主幹	資料21ページに基づき、当該いじめ事案の利害関係者でない方、法律
	、医療等専門知識を有する方等で構成する予定である旨説明した。
岩附学校教育課長	現段階では、まだ素案であること、そして重大事案等が発生した際の第
	三者委員会を市長部局で立ち上げる際、どこの課が所管するのかを今
	後調整・協議・決定していく予定である旨補足説明した。
大谷市長	いじめ発生時の対応は教育委員会で最初に関係委員会を立ち上げる
	か等一連の流れ(手順)について質した。
内藤主幹	まずは、事案の発生した学校での対応となり、その後教育委員会と連携
	をとり調査委員会を立ち上げること、そしてそれでも不服申立てや重大
	事案が発生した際に、再調査委員会を市長部局で立ち上げるという流
	れとなる旨説明した。
大谷市長	最近の実例でいうと、新聞報道のあった東日本大震災後の福島原発事
	故の関連で、避難を余儀なくされている生徒が同級生等から150万円
	余をゆすり取られた事案などが該当するか質した。
内藤主幹	ご質問のとおりで相違ないが、学校で立ち上げた調査委員会の段階で
	もそのような重大事案は取り扱うが、そこで出た調査結果報告に不服が
	あるなどにより、次の段階として市長部局で立ち上げる再調査委員会
	でも同様に扱うこととなる旨説明した。
大谷市長	いじめ発生時においては、学校も市教育委員会も、市も迅速・的確な対
	応を求められることを充分理解・認識したうえで対処されるよう出席者全

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	員にあらためて促す旨述べ、併せて本日はこの再調査委員会の担当課
	等について決定するのか質した。
岩附学校教育課長	資料の烏山小学校いじめ防止基本方針をもとに、学校関係者で組織す
	るいじめ防止連絡協議会のほか、いじめ事案が発生した際に立ち上げ
	となるいじめ対策委員会において、第三者のほか市教育委員会でも必
	要に応じ関わりをもつことになること、そして当該委員会の調査結果に不
	服申立がなされたりした際に、再調査委員会を立ち上げる等、只今の議
	題の関連資料として提示した「那須烏山市いじめ防止基本方針(案)」を
	今後市長部局において、担当となる課で最終的に取りまとめや、再調査
	委員会の立ち上げを進めていくことになる旨説明した。
大谷市長	具体的には、総務課または総合政策課のいずれになるのか質した。
岩附学校教育課長	本日の会議の中で、どちらの課にするというのは決定しないが、関係課
	として学校教育課が関わりながら、最終的には一定の時期までに2課
	(総務課又は総合政策課)のいずれかに事務局となってもらうこととなる
	旨補足説明した。
大谷市長	他に質疑がないかと会議に諮り、質疑がないので、2)「いじめ防止対
	策について」は報告のとおり承認してよいか会議に諮った。
	(全員異議なし)
大谷市長	全員異議なしと認め、2)「いじめ防止対策について」は、今後総務課又
	は総合政策課にいずれかが基本方針策定及び再調査委員会の事務
	局となることを承認する旨告げた。
3) 学力・学習調査の結果について	
大谷市長	続いて、3)「学力・学習調査の結果について」を議題とする旨を告げ
	事務局に説明を求めた。
内藤主幹	資料に基づき、学力・学習調査の結果について、とちぎっ子学習状況
	調査(小学5年生・中学2年生を対象)及び全国学力・学習状況調査

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	(小学6年生・中学3年生を対象)における本市の小学生、中学生の得
	点状況、設問に対する解答の全体的な傾向、今後の課題等について
	の概要を説明した。
大谷市長	質疑がないかと会議に諮った。
澤村委員	とちぎっ子学習状況調査の結果について、全国学力・学習調査同様に
	各学校へ県から周知されているか、また、自分の学校以外と比較(例
	えば小学校同士等)出来るようになっているかについて質した。
内藤主幹	全国・学力学習状況調査同様、既に各小中学校へはその結果につい
	て周知されているが、あくまでも自分の学校分のみであり、他の学校分
	については、比較できる資料も含め周知されていない旨説明した。
大谷市長	今年度の全国学力・学習状況調査については、非常に残念な結果で
	あったが、今後において課題の克服等、学力向上のためには何が不
	可欠か資料13ページに関連し予習・復習等が重要か等質した。
内藤主幹	授業の中で最初に課題を明示する、そのためにはどうすればよいか
	、そして最後にその結果を確認するためのテスト等を行う等一連の組
	み合わせが重要である旨説明した。
大谷市長	予習・復習以外に記述に関して弱点があるのではと質した。
内藤主幹	今回の結果にもあるように、わからない箇所は無回答または記述なし
	である等、今の児童・生徒は全体的な傾向として、論理的なものが苦
	手な傾向にあると推測される旨説明した。
大谷市長	一方で、とちぎっ子学習状況調査については、素晴らしい結果になっ
	たが、本市の目標としては可能な限り全体的にこのような学力が身に
	付くような方向に進むことを期待する旨述べた。
阿久津委員	とちぎっ子学習状況調査に対象者である小学5年生、中学2年生を受
	け持つ担任教員も、児童・生徒の普段の授業態度が、前向きで活発な
	傾向である手応えは感じているのではないかと述べた。

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
阿久津委員	最近学校で実施した学力調査について質した。
内藤主幹	あくまでも、市独自で行ったもので、県内他市町等と結果を比較するものではない旨説明した。また、市内小中学校において、それぞれ昨年12月から今年1月にかけて、学校側の都合に合わせて実施した旨併せて説明した。
大谷市長	他に質疑がないかと会議に諮り、質疑がないので、3)学力・学習状況調査の結果については報告のとおり承認してよいか会議に諮った。 (全員異議なし)
大谷市長	全員異議なしと認め、3)学力・学習状況調査については報告のとおり承認する旨を告げた。
4)その他について	
大谷市長	続いて、4)その他についてを何か意見・質問があるか確認する旨を告げた。
澤村委員	最近栃木県の児童・生徒の体力状況調査の結果が発表されたが、本県の傾向はあまり芳しくない状況であるが、本市が進めている文武両道事業の観点から、市職員で大学で著名な駅伝大会等に出場した人がいると聞き及び、是非、市の事業でその職員が講師となり陸上関係特に、駅伝というかマラソン教室を実施していただきたいと市民からの要望がある旨述べた。
大谷市長	その件については、当該職員も学校関係、特に中学校で長距離走の指導にあたるよう、現在学校教育課に配置し、既に烏山、南那須両中学校で駅伝大会に向けた指導もおこなっており、また本人の母校でもある大学の駅伝部の監督や関係者を招いた講演会等も実施済みであるが、今後も可能な限り要望に応えていきたい旨述べた。また、本市出身の他の選手についても大学駅伝で活躍後、実業団でも活躍中で、今後その母校や後輩たちが先輩の背中を追い、日々成長し

発 言 者	審 議 の 経 過 及 び 結 果
	ている旨も述べた。
	他に質疑がないかと会議に諮り、意見がないので本日の議事は全て終
	了した旨を告げた。
5. その他	特になし。
6. 閉会	大谷市長が閉会を宣した。
	午後2時30分閉会